

事 業 報 告 書

1 支 援 团 体 名	筑後川まるごと博物館運営委員会	
2 事 業 名 称	筑後川大水害の証言発表会と災害記憶資料収集活動	
3 実 施 日 時	2016年7月～2017年2月	
4 実 施 場 所	福岡県久留米市内筑後川周辺	
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>① 一般募集で昭和28年筑後川大水害の体験者に呼び掛けて、当時の様子を語っていただく証言発表会を行った。事前に募集に応じた方2名と当日会場から飛び入りで6名の方が発表した。</p> <p>またハザードマップと当時の写真を示して比較しながら、洪水時の水位をわかりやすくして大水害当時の状況をスライドショーで解説した。</p> <p>7月16日実施 35人参加</p> <p>② 昭和28年水害写真展を9月の防災月間に合わせて、くるめウスで行った。多くの来館者が写真とその解説文を興味深く見ていた。</p> <p>また下流の大川市でも出前で水害写真展を行った。</p> <p>1. 昭和28年大水害写真展（下流大川市）6/11～6/12 210人 2. 昭和28年大水害写真展（中流くるめウス）9月 550人</p> <p>③ 証言発表会と写真展と同時に水害に関する記憶の収集を行った。体験者に記憶ノートや付箋紙に情報を書き込んでもらいまた関連の資料の収集をして情報を集めた。</p>	
6 参 加 内 訳	<p>(事業実施効果)</p> <p>① 実際に体験者した人の証言を聞くことで、その場の様子が実感として伝わっていた。</p> <p>② 当時の大水害の写真を見ることで、当時の現場や周辺の様子が充分に思い返され、現在のその場所もひとたび水害となればそのようになることが予想でき、住民も災害に備えることができると、参加者からわかりやすいと好評だった。</p> <p>③ 災害の記憶資料を収集し公開することで、水害を知らない人や後世の人々に水害は過去のことでなく、今も起こりうることを実感させることができた。</p>	
7 今 後 の 方 針	大水害から63年を経過しても、いつ起きるとも知れない水害への備えは常に行う必要がある。人々に過去の災害と備えの必要性を伝えるこの活動は今後も継続して行く必要がある。これからも体験者の声を伝え、そこから教訓や備えの大しさを広めていきたい。	

7月16日 昭和28年大水害証言発表会



7月16日 スライドショーで大水害当時の状況解説



6月 大川市で大水害写真展



9月 久留米で大水害写真展



付箋紙による情報収集をおこなう



感想ノートに体験談を記入していただいた

